

社会に踏み出す第1歩、鎌倉の幼児教育

私は平成17年4月の初当選以来、一貫して子どもたちの教育、ご高齢者が豊かに暮らせるまちづくりに努力してまいりました。先の9月議会では「お元気高齢者への施策について」として、ご高齢者の社会参加を取り上げ(レポート80に掲載)、この12月議会では幼児教育について質疑を行いました。



12月議会
一般質問中の前川

●初めて出会う社会、他者とのかかわり

生まれてからそれぞれの家庭で育ってきた子どもが、初めて集団での生活を体験し、集団の中での自分、あるいは集団の中での他者を知るようになります。

幼児教育の時期は生涯にかかわる大切なときであり、そのあり方次第で子どもたちの考え方、行動の仕方、他者とのかかわり方が違ってくるとも言えます。

●課題を抱える子どもたちも

互いに自然に気遣うあり方を身につけ、育てたい、そして全体的に穏やかな人間関係を築けるようになって欲しいというのが親の心です。その第一歩が幼児教育ですが、課題を抱えるお子さんもいます。今回はそこに焦点を当てて鎌倉の発達支援について質問しました。

また幼稚園、保育園、こども園などで、課題を抱え支援を受けたお子さんたちの情報が、どこまで小学校に伝えられるのか、その連携の充実について。さらに遊びの場としての小学校の地域開放について。公園設備の管理について——などなど

詳しくは中面をご覧ください。

前川あやこの活動は
ブログ「いやさか通信」
Facebook、Instagramを
ご覧ください。



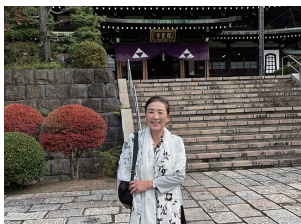
ブログ「いやさか通信」から

旧華頂宮邸の見事な紅葉



今年の紅葉はどこも素晴らしい。中でもここは毎日見ても飽きない美しさ。アオジやジョウビタキの鳴き声も聞かされて、鎌倉の秋を堪能(12/14)。

北条早雲と玉縄城主法要会



玉縄城址まちづくり会議は、歴史を偲びその研究調査をまちづくりに活かして17年になります。私も議員になった当初からのかかわりです(11/23)。

見送りしてくれる黒猫



行ってらっしゃーい!と言うように、鳴きながらバルコニーから見送ってくれる我が家の黒猫。励まされ、慰められ、活力の素となる二匹です(11/13)。

感染症と災害に強い社会を



1. 機能する危機管理の司令塔を
2. 現場の声を生かす体制の構築を
3. 中小企業を支える緊急支援を
4. 緊急事態に即応できる法整備を
5. 憲法に基づく緊急事態宣言の発出を

みなとみらいの県民共済みらいホールで開催された大会に出席。パンデミック、大災害など緊急時のルールはどうあるべきか。考え深いフォーラム(11/25)。

岡崎市立中にF組視察



F組とは校内フリースクールのこと。鎌倉市議会有志で視察に伺いました。教室内の生徒たちの生活の様子など、大変貴重な視察となりました(11/20)。

鎌倉市役所の消防訓練



庁舎内から火災が発生したと想定しての訓練。地元消防団も加わり、放水による消火で訓練は終了。常に備える、という姿勢に感謝と安心を感じます(11/09)。

前川あやこのホームページからブログ「いやさか通信」をご覧ください。
<http://www.maekawa-ayako.net>

【発行】前川あやこ 【住所】〒248-0003 鎌倉市浄明寺2-10-8
【TEL / FAX】0467-23-0964 【E-mail】info@maekawa-ayako.net
【前川あやこ履歴】1960年鎌倉市二階堂生まれ、聖心の園幼稚園
第二小・中学校、聖園女学院、日本大学。

共育のまち、鎌倉をつくろう



鎌倉漁業協同組合が毎月第1日曜日、坂の下のパークホテル玄関前で開く朝市。サバ、カマス、シラス、鎌倉エビ、サザエなど、地場の採れたてが並び、たちまち売り切れてしまう好評ぶり。写真は10月の朝市、鎌倉漁業施設の令和8年着工を願った「魚祭」の時のもの。十数年かかっている私は、大漁旗の下に立たせていただきました(2023,10,1)。



前川あやこ

無所属 鎌倉市議会議員5期

2005年から5期連続当選

会派「夢みらい鎌倉」所属

教育福祉常任委員会委員

レポート

NO.81

2024,01発行

2023年12月議会からのご報告

- 1 鎌倉の幼児教育について
- 2 どの子にも、今しかない発達支援
- 3 もっと欲しい、安全な遊び場



WEBサイト

討議資料

どの子にも、今しかない発達支援

当然のことですが、子どもにはそれぞれの性格や個性、発達段階の違いがあります。友達とうまく遊べない、落ち着きがないなど、人とのかかわりについての心配や、発達に課題のある子どももいます。

●早期訓練・早期対応・グループ指導

市で行っているグループ指導は、乳幼児の時などに発達に関する相談をされた方、就園年齢前の子ども、就園児を対象にした3種類があります。8人程度の小グループに分かれて、2週間に1回、年間10回程度行っています。

●市の発達支援室と幼・保・園との連携

職員が各園を訪問する巡回相談や5才児健やか相談、また各保育園などに在籍している発達支援コーディネーターなどが連携。巡回相談では職員が実際に観察した上で助言を行い、毎年度約50か所、約120回訪問し、約300人について助言を行うなど取り組んでいます。

●発達支援コーディネーターの養成

各園の中で、園と専門機関をつなぎ、園内の発達支援の取り組みをリードする「発達支援コーディネーター」の養成にも力を入れています。すでに市内34園49名の職員が講座を終了、大きな力となっています。

●その子どもにとっては今しかない

様々な取り組みは高く評価されます。しかし今、支援を受けられないことが、そのお子さんの将来に影響することもあるわけで、支援が必要なお子さんにとっては今の支援が全てです。その子どもにとっては今しかない幼児教育の特性を強く受け止め、さらなる努力を要望するところです。

●発達支援室の専門職の職員数

発達支援室には、正規職員として10名、会計年度任用職員17名を配置。保育士、児童指導員など27名になります。多いようですが、必要とする子どもたちにとっては、今、しかないわけで、商工課で行っているモザイク就労などの手法を活用して、増員することを提案します。

●かまくらっ子発達支援サポーター養成

様々な支援が、今いる各園やその後の小学校での教育にスムーズに生かされるために、「かまくらっ子発達支援サポーター」が養成されています。これまでに約600人が受講。令和5年度については定員80人のところ144人の申し込みがあるなど、熱心な受講希望者が多く、保護者の他、小学校や幼稚園の先生、保育士なども。ぜひ養成数を増やし、活動の場を広げていただきたいと思えます。

●支援経過はどのように申し送られるのか

その時々々の支援とともに、その支援経過が次のステップに確実に伝えられていくことが大切です。就学時には支援経過を記載した就学児資料を作成して小学校に引き継ぐほか、通級指導教室とのカンファレンスを実施、さらに教育指導課と教育センターの指導主事を併任職として配置し、常に情報共有できる体制であるとのこと。

●つなげよう、つながろう

しかし実際には、幼保から小学校へのギャップは大きく、一層の情報共有を図っていただきたいと思えます。幼・保・園と小学校、その関係者の双方が、互いに、つなげよう・つながろう、という努力をしていただくよう、強くお願いいたします。

もっと欲しい、安全な遊び場はどこに

子どもの遊び場については、毎年のように要望が出されます。公園などの遊び場の少ない鎌倉市では、小学校の地域への開放が強く望まれています。

●校庭・体育館・図書館を開放できないか

小学校の地域への開放については、私自身長年にわたりお願いしてきました。現在、小学校の校庭や体育館を利用できるのは、学校休業日及び夜間に、それも団体利用者のみと限られています。

放課後、一度家に帰ってからまた学校のグラウンドに戻って遊んだ経験を持つ保護者にとっては、歯痒い思いです。

●学校と地域のつながりが鍵

現在は学校施設の開放は難しい、というのが市の答えです。しかし、地域の助けを得て、部分的に施設の開放を考えている学校も出始めています。コミュニティ・スクールなどもあり、学校と地域が協力し、さらに生徒たちも加わって進めていけないうのでしょうか。

地域の人がかもって学校に関心を持ち、コミュニティの中心として学校を見る必要があります。「学校へ行こう」週間なども試みられています。学校施設の開放は地域の協力次第だと思えます。

●安全な公園のためにアプリの活用

公園のベンチや遊具に不具合や修繕箇所があると、危険を示す黄色いテープが貼られています。公園の状況については週1回職員が巡回視察するのですが、ここに市がすでに導入している、道路などの修繕を市民が市に伝えるアプリを活用してはいかがでしょうか。効率的ということとともに、公園を協働で作り上げるという意識が芽生えます。

ウィッグ購入、多くの方が補助金利用

令和3年6月議会で私が要望した「がん患者の生活の質の向上のためのウィッグ購入費用の助成」。早速令和4年度から実施され、4年度67件約192万円、5年度(12月13日現在)54件約151万円の助成金が使われました。万一時、少しでも前向きになるお手伝いができたことは幸いです。



交通不便地域の解消に向けて

二階堂地区で10月3日から始まった実証実験は今も継続中。鎌倉宮から、緑苑台、瑞泉寺、江ノ電分譲地を回り、火曜と金曜の週2日、毎回6~10の方が利用するという。社会福祉法人きしろ社会事業会がテスト走行しているもので、今は名前がなく「乗りあい車」となっているので、ネーミング募集中だとか。



フリースペースと特例校を設置

鎌倉市では校内フリースペースを令和6年から8年にかけて、市内公立小・中学校25校全校に設置を決定。そして不登校特例校を令和7年4月に分校として設置することを決めました。内容は中学生30人に職員8人を配置、文科省の指定を受けます。

